

# 「主はあなたと共におられる」

～人々には見えない神の存在～ マタイ28：17～20

イエス様の弟子たちにとって、イエス様が十字架に架かって、死んだというのは大変な絶望でした。イエス様は一人の弟子に金で売られ、引き渡されるとき、言い訳もせず、黙って、屠り場に引かれていく羊のように従順でした。鞭打たれ、倒れてもまた起き上がりました。十字架に架けられたイエス様は最後に「我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか」とだけ言いました。なぜ、イエス様はこの言葉を言ったのでしょうか。それは、イエス様は神様からも見捨てられなければならないからです。私たちは劣等感の塊で、人に裏切られ、愛する人から嘘をつかれ、そして、自らの心は憎しみに満ちていて。そんな心の私たちは、人に裏切られる、神にも見捨てられる。という恐怖心を抱えて生きています。イエス様にとっても大切な人からの裏切りによる痛みは私たちと同じです。イエス様もそこを通らなければなりません。なぜでしょうか？それはあなたが、その痛みを負わないため、神様から裏切られないですむためです。そして、十字架にかけられ死んで、三日目に復活されたイエス様は弟子たちと、人々の前に現れました。そして、今日の聖書の箇所は天に召されるときに言った最後の言葉、遺言です。復活したのに、また、天に行ってしまう。どうしてでしょうか。地上にいて、神様を現してほしいと考えてしまいます。しかし、神様の方法は違いました。天に帰ることでした。そして、世界中にいて、イエス様を述べ伝えなさいと言われたのです。

## 使徒パウロの人生

使徒の働き最後のの方にパウロの伝道旅行の記事が出てきます。ローマ帝国の時代、囚人となったパウロはカイザルに会う為に船に乗りました。季節は冬で海は大荒れでした。パウロは嵐が来ることを感じ、港に留まることを提案しましたが、聞き入れられませんでした。結果、船は難破しかけます。そんな大変な時、パウロは人々にパンを与え、安心するように話しました。しかし、また、船が座礁しかけます。今度は、百人隊長はパウロの言うことを尊重し提案を受け入れ、難を逃れたのです。以前、パウロはイエス様を信じる者を迫害していました。あるときイエス様に出会って、生き方をかえました。今までとは全く逆のことを伝えるようになりました。正しい事を伝える決断をしたのです。しかし、人々は、パウロのことを聞かず、馬鹿にしました。先生と呼ばれていた人が、ユダヤ人の恥と言われ、囚人となり、殺されるために、船で運ばれている中、言うことを聞かない人を赦し、皆が助かるために祈りました。そして自分の意見を聞き入れなかった人を攻めたりしませんでした。なぜそのようにできたのでしょうか。それは、イエス様にそのように愛されたからできたのです。パウロの人生を通してイエス様を証したのです。私たちが神様のことを伝えようとするとき、人々から受け入れられないことがあります。なぜなら、聖書の基準は世の中の基準とは全く違うからです。上着を奪おうとする者には下着も与えなさい。右のほほを打たれたら、左の頬もだしなさい。とイエス様は教えました。世の中ではありえないことです。教会へ毎週集うのは自分に悪いことをした人を赦すために集っているのです。なぜそのようなことができるのでしょうか。それはイエス様に愛されたからです。大事なものは、私たち一人ひとりの行動です。皆さんはひとりひとりがイエス様の証人です。イエス様にどうやって出会い、どう愛されたかを伝えなさいと言われていました。神様と出会ってなかったら、どうなっていたでしょう。ずっと被害者で人のせいにし続けていたでしょう。だから、自分が、徳をすることばかりをもとめ、損をするなんてありませんでした。今を生きているとあなたの目の前は霧でいっぱいだけど、神様はその先に道を作りました。私たちはその道を進んでいるのです。目の前の小さな出来事その道から外れてしまいます。すぐ心を騒がせてしまいます。だから、一番大切なことを忘れないようにしないといけません。

## ①神様の存在をいつも認める

人は、苦しい時、悲しい時神様に祈るものです。元々私たちは神様の存在を知っていました。しかし、忘れてしまったのです。だから、あなたをみていて、守ってくれる人がいることをわかっています。じゃあなぜ助けてくれないのと言う人がいます。それは、神の御手が短くて救えないのではない。あなたの罪が神様との隔たりとなっているのです。罪とは自分の為に生きるようになった瞬間から、神様の道からはずれてしまったことです。だから、教会にもどるのは自分の為に生きる人生から、あなたの隣人を愛した神様のために生きる人生に、変わるためにきているのです。特に、偽りのあなたが出てしまうとき、弱い時、あなたの言うてはいけないことを言うてしまうときにこそ、神様を認めてほしいのです。

## ②あなたは神の代行者

私たちの人生には思いがけないことが起きます。そんな時あなたがどう行動するかです。偽りのあなたをそのまま行動させないでください。危険です。あなたは、神様の代行者であることを覚えてください。人に話すとき、諦めなくなる時、怒ったり、ふてたりするとき…。しかし、イエス様はそんなことはしませんでした。だから、私たちもしてはいけないのです。特に親しいひとに「この人ならまあいいか。」と偽りのあなたをそのままにはしないで行うか。

## ③あなたが伝えなければ。！！ あなたを大切に保ってください。

イエス様は神殿の頂上に立って大勢のひとに、演説すれば人が救われたでしょう。しかし、イエス様は一人一人のところへ行って傷んでいる問題を一つ一つ解決しました。盲人のところに行って、どうなりたかたとずね、癒やしました。人から差別されていたライ病の人のところへも行きました。無駄のようにみえることをひとつひとつ繰り返しました。そして、2000年たち、その方法はあなたのところへもきました。病が治ってもひとは忘れてしまいます。しかし、愛された事は憶えています。一生消えない方法です。教会は神様の愛をたしかめるところです。神様は一人ひとりに寄り添い、人生に向き合い、人生をつくりかえる証を通して、あなたが、人々へイエス様の証を伝えるためにイエス様はあなたに向き合い愛してくださるのです。不足に目を向け、不満を口にすると、私たちの視線はズラされ、神様の愛から離れる方向へ歩んでしまいます。愛が薄れていきます。しかし、神様はそんなあなたをいつも愛し寄り添って下さっています。神様から愛されているあなた自身を大切に保っていきましょう。

## 祈りましょう

イエス様が私の人生に個人的にかかわって下さっていること、ありがとうございます。あなたが痛みを負い、犠牲を払ってくださったことで、愛を知りました。私の周りにはまだまだ、神様を知らない人がたくさんいます。あなたが、愛している人たちです。どうか、わたしはこのみ言葉のように、生きることができるよう。神様を証するものとなれますように。人生を、心をかえてください。